

令和元年度

環境経営レポート



対象期間 : 令和元年4月～令和2年3月

発行年月日 : 令和 2年8月8日

Mioテクノロジー株式会社

目 次

1 事業概要&認証登録範囲	1
2 環境経営方針	2
3 実施体制	3
4 環境経営目標	4
5 環境経営目標の実績	5
6 環境経営活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取	6
7 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、 訴訟等の有無	7
8 代表者による全体評価と見直し結果	8

1 事業概要&認証登録範囲

1 名称及び代表者名

Mioテクノロジー株式会社

代表取締役 **大和田 有悦**

2 所在地

本社・工場 宮城県気仙沼市松崎上赤田63番地3

松川工場 宮城県気仙沼市松川383番地

3 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 常務取締役工場長 伊東秀光 TEL : 0226-23-7211

E-mail ito@mio-tec.co.jp

担当者

藤田敦男 TEL : 0226-23-7211

E-mail fujita@mio-tec.co.jp

4 事業活動の内容

医療機器、情報機器、通信機器装置の製造

5 事業規模 平成29年度

資本金 2,016万円

製品出荷額（又は、販売額） 2.5 億円

項目	本社	松川工場
従業員	50名	0名
延べ床面積	1744㎡	522㎡

6 認証登録範囲

本社・工場 宮城県気仙沼市松崎上赤田63番地3

松川工場 宮城県気仙沼市松川383番地

7 事業経歴・営業範囲

事業経歴

平成17年 3月 Mioテクノロジー株式会社 創業

平成23年 3月 東日本大震災により工場が壊滅

平成23年10月 気仙沼市松崎に工場移転

平成24年 5月 気仙沼市松川に松川工場新設

平成24年12月 エコアクション21認証取得

平成27年 3月 ISO9001認証取得

営業範囲

岩手県、宮城県、関東・東海地区

環境経営方針

〈環境理念〉

Mioテクノロジー株式会社は、プリント基板及び電子機器製品の製造工場として、お客様に満足していただける、ものづくりをするために品質、納期、コストの管理、技術力を磨き、お客様の信頼と満足度を高めます。

また、地球環境の保全が重要課題と認識し、活動によって生じる地球環境への負荷を減らすよう行動する事により地球にやさしい企業を目指す。

〈環境保全への行動指針〉

Mioテクノロジー株式会社の社員一人一人は「この美しい海と川、山の緑、そして澄んだ青空を守り続けます」をスローガンに掲げ、次の世代へ引き継いでいく事が基本的責務との認識にたって行動する。

- 1、社内における二酸化炭素・廃棄物排出量の削減に積極的に取り組み継続的な改善と環境汚染の予防に努める。
- 2、環境保全活動を通し、経費節減を実現する。
 - ・電気代の節約(節電、新電力への切り替え)
 - ・廃棄物処理代の節約(リサイクルの推進)
- 3、国や地方自治体が定める環境関連法規制、並びに当社が同意したその他の要求事項を順守する。
- 4、全員に環境教育等を実施し、環境経営方針の理解と環境保全に対する意識向上に努める。
- 5、私たちの生活の持続性と生物多様性との関わりを理解し、積極的かつ自発的に自然との共生のために行動する。
- 6、地域の文化や慣習を尊重し、社会貢献活動(工場見学、インターンシップの受け入れ)に積極的に取り組む。

改訂日:平成30年12月1日

改訂日:平成30年5月1日

制定日:平成24年5月1日

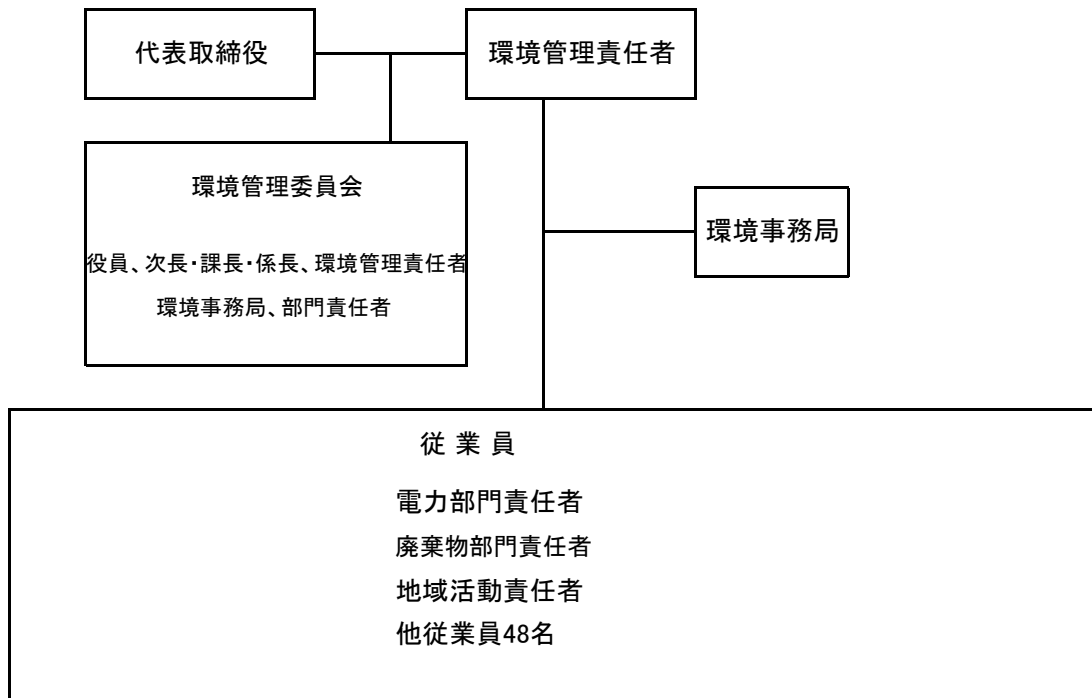
Mioテクノロジー株式会社

代表取締役

大和田 有悦

3 実施体制

(1) 組織図



(2) 環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 ・環境管理責任者を任命。 ・環境方針策定、目標・活動計画の承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。
環境管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長は代表取締役とし、環境管理責任者が召集する。 ・環境管理責任者の提案を審議し、決定事項を部門責任者は各部門で実施する。 ・内部監査の代りに、計画の進捗状況・ガイドラインへの適合状況を審議し、不適合・不具合がある場合は代表者、環境管理責任者に是正を勧告する。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境活動の取組結果を代表者及び環境管理委員会へ報告。 ・新規の材料を製品に使用する際は、「富士通グループの指定化学物質リスト」で禁止化学物質が含まれていない事を確認し、使用の承認をする。
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 ・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付） ・取組データの集計、取りまとめ及び文書記録類の管理。
部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・担当部門について環境経営システムを実施し、維持する。 ・省資源、省エネ、節水等の奨励・実施・確認・是正。 ・従業員に対する教育訓練の実施
全社員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚し、能力向上に努める。 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

4 環境経営目標

当社では、平成29年度を基準年度として中期環境経営目標を設定致しました。

項 目	基準年度 平成29年度	環境経営目標		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
二酸化炭素排出量	売上高に対する電力料金比率削減	264,578kWh		
		144,989kg-CO ₂		
		2.483%	2.459%	2.434%
廃棄物排出量	売上高に対する産業廃棄物処理費用比率削減	5,104kg		
		0.117%	0.113%	0.112%
総排水量(水資源投入量)	用途が生活排水ため(30l/日・人)、節水徹底にてデータ管理とする。			
製品・サービスに関する取組 不良率の低減	品質管理部門での活動			

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：東北電力(平成28年 調整後排出係数 0.548kg-CO₂/kWh)

5 環境経営目標の実績及び評価

項 目	令和元年度 目標	令和元年度 実績	達成率(%)	環境目標の 達成状況	評価
二酸化炭素排出量 電力料金比率(売上高比)削減	2.434%	1.912%	127%	達成	活動内容、特に蛍光灯のLED化が効果ありと思われる。
廃棄物排出量 産業廃棄物処理費比率(売上高比)削減	0.112%	0.074%	151%	達成	受注内容に寄り、廃棄物の内容も変化するが、目標の達成には日々の分別も重要な要素である

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：東北電力(平成28年 調整後排出係数 0.548kg-CO₂/kWh)

主な環境負荷等の実績

項目	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
二酸化炭素排出量	電力	kg-CO ₂ /年	144,989	143,561
	ガソリン	kg-CO ₂ /年	3,561	2,958
	軽油	kg-CO ₂ /年	9,011	10,000
	灯油	kg-CO ₂ /年	2,519	2,440
	合計(エネルギー)	kg-CO ₂ /年	160,080	158,959
廃棄物排出量	kg/年	5,104	3,925	3,464
総排水量(水資源投入量)	m ³ /年	467	464	499
半田使用量(無鉛棒半田)	kg/年	1,017.5	920	810
半田使用量(共晶棒半田)	kg/年	315.9	236	368

6 環境経営活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容

1. 取組結果の評価

表5 主な環境経営活動計画の内容と取組結果

項目	環境経営活動計画	実施状況の評価	評価
二酸化炭素排出量の抑制	工場内の天井照明をLED化し消費電力を下げます。 今年度交換予定:60灯	LEDへの交換作業は、工場の約8割が交換済みとなりました。その効果も表れている。	○
	省エネ設備の導入(4月) 窒素発生装置	小型の設備導入により、大型のコンプレッサーの稼働が抑えられ効果は大きい。	○
	電気代削減を目的に新しい電力会社を探しながら、現電力会社との価格交渉も行う。	新電力の売り込みは多数あり、説明を聴いてみるが、現在の会社に勝るメーカーは現時点ではない状況である。	○
廃棄物の排出抑制	ICTトレイの回収 産業般廃棄物 排出物の分別	ICTトレイを回収(リサイクル)に回すことで、廃棄物の重量が激減。効果は大きい。	○

○:評価できる、△:まずまず評価できる、×:評価できない

2. 次年度の取組内容

(1) 二酸化炭素排出量の削減

令和元年度取組の継続

(2) 廃棄物の排出削減

令和元年度取組の継続

(3) 節水(排水対策)

管理項目として対応

(4) 不良率低減

品質管理部門で活動

7 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規について遵守状況をチェックしたところ違反はありませんでした。
また、H24年10月～関係当局からの違反等の指摘、住民等からの苦情、訴訟等について、問題がありませんでした。

8 代表者による全体評価と見直しの結果

見直し項目	評価	改善及び指示
1環境方針	特になし	特になし
②環境目標	目標達成が出来ました。結果として、電気代が80万円節約できたことは、大きな成果と思います。	標値を売上比率として評価してきましたが、電力量・廃棄物とも関連性が低い様に感じます。今後については、直接的評価が分かりやすいと思います。
3環境活動計画及び環境経営システム	特になし	特になし
4その他(法規制)	特になし	特になし
5全体評価 本社工場の77%(141灯/183灯)がLED電灯に交換できました。 特に夜間の作業区域の100%がLED化された事が目標達成に繋がった様に思います。 引き続き、残りの42灯のLED化を推進してください。 今年1月に新たな設備が追加されました。また、最近の生産で窒素発生器の稼働が増えて来ています。 何れも電気代が上がる要因です。新たな改善の検討をしてください。		

環境活動の状況

不要な照明を消灯する。



蛍光灯に個別スイッチを付ける。



シーリングファンを取り付け
冷房効果を高める。



窓にシートを貼り、断熱効果を高める。



蛍光灯をLED電灯に交換



環境朝礼



地域活動

2019年10月14日(月) 環境ボランティア活動(地域清掃) (AM9:00~AM10:00)

